

# ミュージアム・エドゥケーター 研修会

学校のよりよい利用形態にむけて

～美術館を活用した鑑賞授業を通して考える～

墨田区立業平小学校  
南 育子



## 1. 図画工作科における鑑賞の扱い

教科の目標(学習指導要領より)

表現及び鑑賞の活動を通して、感性を働かせながら、つくりだす喜びを味わうようにするとともに、造形的な創造活動の基礎的な能力を培い、豊かな情操を養う。

児童自身の本来備わっている資質や能力を一層伸ばし、児童が自らつくりだす喜びを味わうようにするとともに、造形的な創造活動の基礎的な能力を培い、生活や社会と主体的にかかわる態度を育て、豊かな情操を養う。



**題材を設定し授業を実施**

## 図画工作科

(領域) A表現とB鑑賞

表現と鑑賞は相互に関連して働き合うものとしてとらえ、鑑賞の活動や作品などの対象を幅広く考える必要がある。

(地域の美術館などの利用や連携に関する事項)

- ・指導上の効果や児童や学校の実態に応じて、地域の美術館などを利用したり、連携を図ったりすること。
- ・利用においてはひとり一人が能動的な鑑賞ができるように配慮する。



## 鑑賞授業実施まで

- ①鑑賞授業の校内の日程調整
- ②候補日を美術館教育普及学芸員さんに伝え可能日を決め、打ち合わせの日程調整
- ③現場で学芸員さんとのような鑑賞ができるか作品をみながら相談する  
子どもの様子を伝えお互いの役割などを決める
- ④鑑賞トークメモを作成、時程詳細を作成し、学芸員さんに送付
- ⑤当日、学芸員さん到着時刻にあわせて入り口でお出迎え

### ①鑑賞授業の校内の日程調整

3年生の担任と校長の予定を確認し、可能な日を選ぶ。

### ②候補日を美術館教育普及学芸員さんに伝え可能日を決め、打ち合わせの日程調整

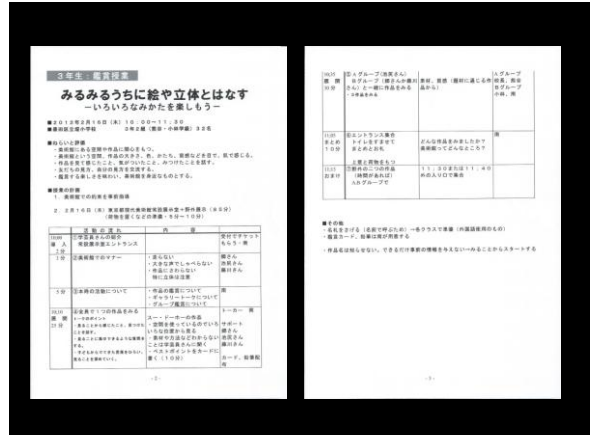
美術館の鑑賞受け入れ枠と学芸員さんの予定をすりあわせ日程決定

### ③現場で学芸員さんとのような鑑賞ができるか作品をみながら相談する

子どもの様子を伝えお互いの役割などを決める

- ・どのような鑑賞をしたいのか
- ・美術館の展示作品を選択
- ・美術館の特徴と作品の展示コンセプトを知り再度作品を選択
- ・教員と学芸員さんの役割

④鑑賞トークメモを作成、  
時程詳細を作成し、学  
芸員さんに送付



SUH DU HO 「リフレクション」



自分の目でじっくりみる。自分の身体で空間や作品の大きさを感ずる



学芸員さんから材料を  
触らせてもらう





### 3, 鑑賞授業の背景として

①東京都図画工作研究会 + 国立西洋美術館 東京国立近代美術館 東京国立近代美術館工芸館 東京都現代美術館 東京都美術館 連携美術館鑑賞研修会 (2002年から実施)	②墨田区図画工作研究会 + 東京都現代美術館  毎年、夏期休業中に美術館を会場に子どもの鑑賞について考える研修会を実施  (2006年から実施)
-------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------



テーマ 子どもを育む「鑑賞」を考える

見る＝先入観や情報にたよらないで自分の目で見ると感じる・考える＝自分なりに見て、感じたことから考えを組み立てる

言葉にする＝自分の思いや考えを他者に伝える

聞く＝他者の思いや考えを知る・認める

- ・学校と美術館が一緒に子どもの鑑賞について考え、教員向けの研修会を計画し、運営する。
- ・美術館でどんな授業をすることができるか、研修会を通して参加者が鑑賞することを体験し、実感をもって考えることができる。
- ・鑑賞授業が一部の教員だけのものにならないよう、悩んでいる人へ開かれた場とする。
- ・各地区でこのような研修会がもてるように学芸員と教員がつながりを持つ場となる。(顔見知りになることで、話しやすくなる)









教員と学芸員による少人数参加者に向けたグループワーク



全体会 意見交換

### 3, 鑑賞授業の背景として

- ①東京都図画工作研究会      ②墨田区図画工作研究会
- +
- 国立西洋美術館                  東京都現代美術館
- 東京国立近代美術館
- 東京国立近代美術館工芸館
- 東京都現代美術館
- 東京都美術館
- 連携美術館鑑賞研修会                  (2006年から実施)
- (2002年から実施)

毎年、夏期休業中に美術館を会場に子どもの鑑賞について考える研修会を実施

### 内 容

1. 教員の鑑賞体験  
 ギャラリートーク体験  
 現代美術の視点からワークショップ  
 言語活動の視点からワークショップ
2. 鑑賞授業につながるグループワーク
3. 学校と美術館の意見交換





ギャラリートークを体験する  
「子どもはどんなことを感じるのだから？」(2009)



ワークシートをつかい授業づくりとシミュレーション (2009)



**学芸員によるワークショップ**

Aグループが見た作品を言葉や動作で伝える。  
Bグループは聞いた話から絵に描いて答える。  
(2012/8)



言葉をつかったいろいろな鑑賞に挑戦  
(2012/8)



**ミーティングルームで意見交換**

(2012/8)

(2009/7)

**この研修会をなぜ継続しているのか？**

東京都現代美術館は墨田区の近隣にあり、すべての学校が子どもを連れて美術館に出かけることが可能である。

東京都図画工作研究会で運営したノウハウを活かし、墨田区で研修会を立ち上げた。(2006年)

- ・すでに東京都現代美術館にでかけ、3校が鑑賞授業を実施していた。美術館の鑑賞に関心を持つ教員が増える。が・・・

**美術館側も学校の来館普及活動をしている。**

- ・教員向けの教育普及プログラム
- ・墨田区校長会への教育普及プログラム、活動内容の説明
- ・墨田区図画工作研究会部会参加



夏期休業中に実施（半日）することで

・時間を確保することができる  
研修内容を充実させることができる

・参加者は部員の7割程度

不参加者は他の研修と重なった場合  
産休代替え、嘱託の学校の場合

### 研修会を継続することで

- ・学芸員と教員が顔見知りになり、相談しやすい関係  
ができた。
- ・学校言語と美術館言語の交流・お互いの現場の交  
流により、足りないことを補う関係ができる。
- ・学校での子どもの様子と美術館での子どもの様子  
の交流をお互いの現場で生かしている。
- ・教員の資質向上(美術を通じた感覚の覚醒)
- ・鑑賞授業の充実(美術館でも学校でも)